

畑 陽一郎 (はた・よういちろう) 先生

一般社団法人日本レコード協会 事務局次長

1985年、東京電機大学電子工学科卒業。

レーザーディスク株式会社(現 ジュネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン)入社。映像・音楽スタジオ、光ディスク技術などの業務に従事。

1997年、社団法人日本レコード協会入社。情報・技術、法務、違法対策などの業務に従事。

2008年～、同協会 情報・技術部部長兼法務部担当部長。

2010年4月～、同協会 事務局次長。



参考：日本レコード協会HP <http://www.riaj.or.jp/>

### 〈講義概要〉

一般社団法人日本レコード協会の事務局次長として、日本のレコード産業の発展に尽力する畑陽一郎氏が、近年大きな課題のひとつとなっている違法音楽配信について講義を行った。

講義では、まず日本の音楽ソフト市場の現状について、その実態や背景を詳細なデータを用いて説明。さらに、音楽配信ビジネスに関する歴史や今後の動向、音楽配信を利用した販売促進モデル等について詳しく解説した。

引き続き、違法音楽配信の実態を説明し、違法は身近なところで行なわれていること、そしてそれが音楽業界へ大きな影響を与えていることを訴えた。また、法的措置や法制度、技術的対策、広報活動など様々な対策を紹介。音楽を守るために多くの取り組みがなされていることを伝えた。

音楽の利用形態が多様化する中でのレコード産業のあり方、さらには複雑化する音楽著作権の問題について、必要な知識と考え方を示す講義となった。

## 《受講生の感想》

違法音楽による被害がこんなに大きいものだとは知りませんでした。無料でダウンロードできる音楽というのが身近になりすぎていて、問題意識が非常に低かったなと実感しました。音楽がさまざまな人の手によって私達のもとへ届けられているということが再確認できて良かったです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

時間をかけて創作したものが、違法な手段にかけられてしまえば、曲そのものの価値も下がると思いますし、アーティストの創作意欲の低下への影響も否めないと思います。「音楽」そのもの、そして「音楽の伝統」を守り築いていくために、また「音楽の価値」を汚さないためにも、横行している違法アップロードへの対策がどれだけ重要なのかを知ることができました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

様々な法律や運動があり、それを学ぶことによって私たちも“音楽”を守ることができるのだと思いました。ダウンロードするだけで違法になってしまうというのは、まだまだ知られていなかったり軽視されていると思うので、これからもっとPRしていく必要があると思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

デジタル化に合わせ、音楽を楽しむ方法も多様に、手軽になりました。その仕組みについて分かるようになって、これから音楽と接するとき、その中のビジネス的な面やプロモーションについて分析できると考えます。立命館大学・産業社会学部・3回生

デジタル音源が普及していき、CDの需要が減ってくると、レコード会社の役割が少なくなってしまうと思っていました。しかし、今日の講義を聞いて、レコード会社は、CD制作以外にも戦略的なプロデューサーなど重要な役割を持っているのだということがわかりました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

法学部において著作権問題や違法コピーの問題を勉強してきたが、その内容は法整備などであり、実際にどのような取り組みがなされているかは知らなかったため、このように最前線の現場の方の話が聞けて、貴重な経験になった。このような問題に対して、法的措置や技術的対策や広報・啓発活動などの取り組みは根絶に向けて重要なプロセスであると思うが、情報化社会が成熟してきた日本において、モラルの教育というものもこれからの課題になってくるとは思わないだろうか。

立命館大学・法学部・4回生

